

(11) **Quoth.**

此動詞は *be-queath* といふ組立の形に於ける外は今日
は不明なる昔時の動詞の過去時なり

此動詞の意義は 'says' (言ふ) 或は 'said' (言ひき) に
して過去と現在とにて第三人稱の單數にのみ用ひられて常
に其主の前に居る:—

'Let me not live,' quoth he.—*Shakspeare.*

(余をして活かしむるなかれと彼人は言ひき)

(12) **Need.**

此は要す (require or want) といふ意義にて主要即ち獨
立動詞なり主要動詞としてはすべての法と時とに於て規則
通りに辭尾を變化す

第三人稱の單數は *need* にして *needs* にあらざること
dare の *dares* に代るに等し但し否定辭に繼がるゝ時なりと
す

He *need* not (=is under no necessity to) do any
more work (最早仕事を爲すに及ばず)

He must *needs* do this の如き句に於て *needs* の實に所
有格なり 's' 文字の前の apostrophe (') は脱却せられた
るものなり故に *need=need's=of need=of necessity=*
necessarily なり故に *need* は副詞となる

(13) **Worth.**

此動詞は 'woe *worth* the day' の如き句に現はる其意
義は 'woe be the day (今日まで悲し) にて day は目的格な
り

Worth は茲にては (願望の意義にて) 'to become' の
意義の昔時の動詞の接續法とす

(14) **Wit**

此動詞は 'to know' の意義なり其形の二三が生き残り
て他は多く不明なり

(a) 不定法の 'to wit' の 'namely' (即ちいはば) の意
義を有す此形は今日成規の證書面に用ひらる:—

He left me by will all his land, *to wit* the three farms
(彼人はすべて其地面を遺言にて余に残せり即ち三ヶ所の
田なり)

(b) 現在分詞は *unwittingly* といふ否定副詞の形にて
生存せり其意義は 'unknowingly or 'unintentionally' (知ら
ず誠に) なり

You *cannot* blame him for this, since he did it *unwit-
tingly.*

(汝は此事につきて彼人を非難すること能はず何とな
れば彼人は之を無意にてなしゝが故に)

(c) 直説法の現在には *wot* の形にて現はれ直説法の過
去には *wist* といふ形にて現はるゝことあれども殆ど不明
なり

Present.—He *wot* neither what he babbles nor what he
meaus.

(彼人は空談する何義をも又何義の意なりやをも知ら
ず)

Past.—They *wist* not what had become of him.—*New
Testament*

(彼等は彼人に何事の生せしやを知らざりき)

(15) Beware

此の be+ware より成れる組立辭なり

‘Ware’ は ‘wary’ といふ形容詞の昔時の形にて其意義は cautious (注意して) にして此形容詞は be といふ動詞に對する補充辭なり而して常に Of といふ前置詞に繼がる

Beware といふ形は用ひられたる唯一の形なり

(16) Wont

此は ‘to continue’ (續く) の意義ある不明動詞の過去分詞なり故に ‘wont’ は accustomed (習慣したる) の意義となる

(17) Hight

此は ‘to call’ の意義ある不明動詞の過去分辭なり

(18) Impersonal Verbs

(人稱なき動詞)

動詞は其主として ‘it’ といふ辭を採りて目的格なる代名詞に繼がるゝときは不人稱動詞と名付けらる

It shames me to hear this (これを聞くことが余を耻かしむ)

(=I am ashamed to hear this) (余は之を聞くに耻かし)

It repents me of my folly = I repent of my folly

(其は吾が愚につきて吾を悔いしむ、余は余が愚を悔ゆ)

It behoves me to do this = I ought to do this

(此事を爲すことは余を要す、余は之を爲さざるを得ず)

It といふ辭は脱却せられて目的格の代名詞却て動詞の前に置かるゝ三個の場合あり

It thinks me = it thinks me = I think (我惟ふに)

It seems to me (我見る所は)

It pleases me (我か見る所は)

左の句は Elliptical (省略句) なり

So please your Majesty. — *Shakspeare.*

此は左の意義なり

If it so please your Majesty.

尙詳言せば

If your Majesty so please or so desire.

(陛下左様に欲し給はゞ)



印刷所 八尾活版所

東京市神田區錦町三丁目八番地

印刷者 積山之和

東京市神田區錦町三丁目八番地

發行所 三河屋書籍店

東京市神田區仲猿樂町四番地

發行者 齋藤權右衛門

東京市神田區仲猿樂町四番地

譯者 中原貞七

東京市本郷區駒込千駄木町三百五十五番地

同 三十一年六月廿三日發行
明治三十一年六月十七日印刷

正價金四十錢

大賣捌所

岡山縣岡山市石關町	渡邊千代治	仙臺市名掛町	佐藤養治
加州金澤市石浦町	宇都宮源平	横濱辨天通四丁目	丸善書店
全 二條南入	若林書店	名古屋本町通鐵砲町二丁目	三輪文次郎
二丁目 京都市下京區河原二條下ル	大黒屋書店	仙臺大町	木村文助
大阪市北久寶寺町	九善出張所	鹿兒島市中町	吉田幸兵衛
全區今川小路二丁目	櫻木屋	山口縣中ノ市町	小原松千代
神田區表神保町	東京堂	福岡市博多中島町	積善館支店
日本橋區通リ三丁目	林平二郎	全 尾張町	益智館書店
京橋區南傳馬町二丁目	目黒支店	加州金澤片町	石井久太郎
日本橋區通リ一丁目	大倉書店	全 備後町四丁目	梅原龜七
神田區北神保町	岡崎屋書店	全 北久太郎町四丁目	柳原喜兵衛
全本郷區春木町二丁目	半田屋	大阪市備後町四丁目	吉岡平助
全本郷區切通坂町	南江堂	越中富山四十物町	中田書店
全日本橋區通リ三丁目	九善會社書店	長崎縣長崎酒屋町	安中集榮堂
東京市神田區表神保町	中西屋書店	肥後熊本新二丁目	長崎次郎

巴水書屋編纂

英作文活法

するに於て遺憾なげん
たる所以なり庶幾くは英作文の蘊奥を開發
精通せる諸先生に謀て本書の編纂に従事し
る所なり本店こゝに見るあり日英の語學に
所幾何もなし是れ夙に講學の士の遺憾とす
に讀者の腦を悩ましむるのみにして其得る
々柄難相容れざるの解釋を爲す是を以て徒
せず邦文を解する者英文に精ならず故に往
ものゝみ是他なし英文に精なる者邦文を解
の無きにわらずと雖も多くは是陋劣蕪雜の
從來邦語を以て英作文の法を解釋せるも

正價金四拾錢 郵税金四錢

文學士 中原貞七先生著

前置詞用法附接續詞

値を知ら
様ものせられたる書なり請ふ一讀して其價
驗に依りて初學者にも容易に會得せらる
先生が多年英語の教授に従事せられたる經
用法を箇々例を擧て詳説したるものにして
本書は其題名の如く前置詞及び接續詞の使
定價金廿五錢 郵税金四錢

英文法神髓

巴水書屋校訂 酒卷貞一郎著

は必需の書なり
背かず諸官立學校其他中學課程の受験者に
詳密に説明したる者にして眞に神髓の名に
狀詞を個々例を擧て平易なる日本文を以て
本書は英文法中至難に屬する動詞及び動詞
正價金卅五錢 郵税金四錢

とを
 方の諸彦一本を購て博言の資に充てられん
 るを以て又一の誤脱をきを保んぜり請ふ大
 因て第四版に在ては太に力を校訂に効した
 了を急ぎたる爲多少の誤脱を免れざりしを
 得たり只恨む教科用の都合に因り非常印刷
 にし印刷を鮮明にし優に舶來品を脱ぐ事を
 幣店發に本書を雕刻するに方り紙質を精良
 他に索むべからず
 に語法を會得せしむるもの實に本書を借て
 正なる學者をして不知不識の間にて容易
 本書なる哉其解説の懇篤なる其順序の整
 して最良好の書は何ぞ、曰く、本書なる哉、
 英學者にして佛學を講習する者の指南車と

正價金一圓廿錢 郵税金八錢

ラット氏佛英會話文典 四版
 エミル氏

Orto, Dr. E. French Conversation-Grammar. A New and Practical Method of Learning the French Language.

に最も適當なる書なり
 等中學校尋常中學校を通じて教科用とする
 して精確なる注釋を加へたるものなれば高
 文集より其最も教科用に適するものを採擇
 として特に發刊せるものにしてポーブ氏詩
 本書は第一高等學校正則英語學校の教科書

正價金三十錢 郵税金四錢

ポーブ氏詩抄

訂せり伏て請ふ續々御購讀あらんことを
 きは専門諸家に托して原書の誤脱も亦之を
 初學者にも會得するに難からず且校正の如
 法の明確なるは勿論行文亦甚だ平易にして
 本書はスミス氏自ら著せしものなれば其解

正價金五十錢 郵税金六錢

スミス氏大代數學解式

五版を發行す

易なり今や幸に江湖の贊評を博し茲に増訂
 の順を逐て之を配列したれば索引亦極めて容
 言語は雅俗を問はず舉て之を網羅し洋字母
 擇に至ては陳を去り新を彙め日常須要なる
 切にして辭義の明確なるは勿論吾邦語の撰
 試るに於て至便至要の書たり且其譯字の適
 本語を獨逸語に擇し或は諸般の獨逸作文を
 本字書は獨和字書の反對なるものにして日
 なり

刷鮮明製本堅牢にして美麗且携帯に便
 用紙薄手最良質舶來紙細字一頁二列印

正價金壹圓五拾錢郵税金十錢

新撰和獨字彙 第五版 増補 改訂

パウル、エーマン補正 塚本明壽 著
 山脇 玄校閱 安戸深藏合著
 平塚定二郎

りき

の精良なるは殊に弊店の期する所に違はざ
 りして校正の周密なる印刷の鮮明なる用紙
 是れ弊店に於て本書を雕刻したる所以なり
 の廉ならざる爲め教科用を爲すを得ざりき
 に足るの書なり然れども舶來書は割合に價
 鵲を失はず講學の士の依て以て師と奉ずる
 氏の此著の如きは其說嶄新にして而かも正
 ラウン、等の如き皆舊說に屬す獨りベイン
 ども彼のスフィンソン、クァッケンボス、ブ
 英文典の吾邦に行はるゝもの頗る多し然れ

正價金六十錢 郵税金六錢

ベイン氏大文典

勢のみの流行を見るに至らんと今日の進趨
 帖字體の試用せられつゝ或は蓋し是より本
 否に就て試用せられつゝ或は蓋し是より本
 教科書として本帖を採用し或は蓋し是より本
 最も其然るを見る今や各尋常中學に於ても
 は勿論なれども商業用文簿記々入等に於ても
 を記述するに當り運筆の迅速を明瞭を貴ぶ
 練習者の便に當り運筆の迅速を明瞭を貴ぶ
 め且巻端に習字法を心得るも今日社會萬般の事
 を稱道せられ弊店をして茲に之を譯載せし
 教授の實を得たる者云ふべし官學校
 に改訂の僅々の日子にして熟達するを得
 り蓋し之に依りて練習せば天性運筆に拙なる
 遂に一の無害速成の新字體を依りて注意し左
 れば近時歐米に於ても大に此點に注意し左
 入能はず途見るに堪へざるの字を成すし
 運筆の拙なる者に至るは傲はんと欲して天
 來の習字法は美術の一方に傾くが故に天

新體英習字帖

全五冊

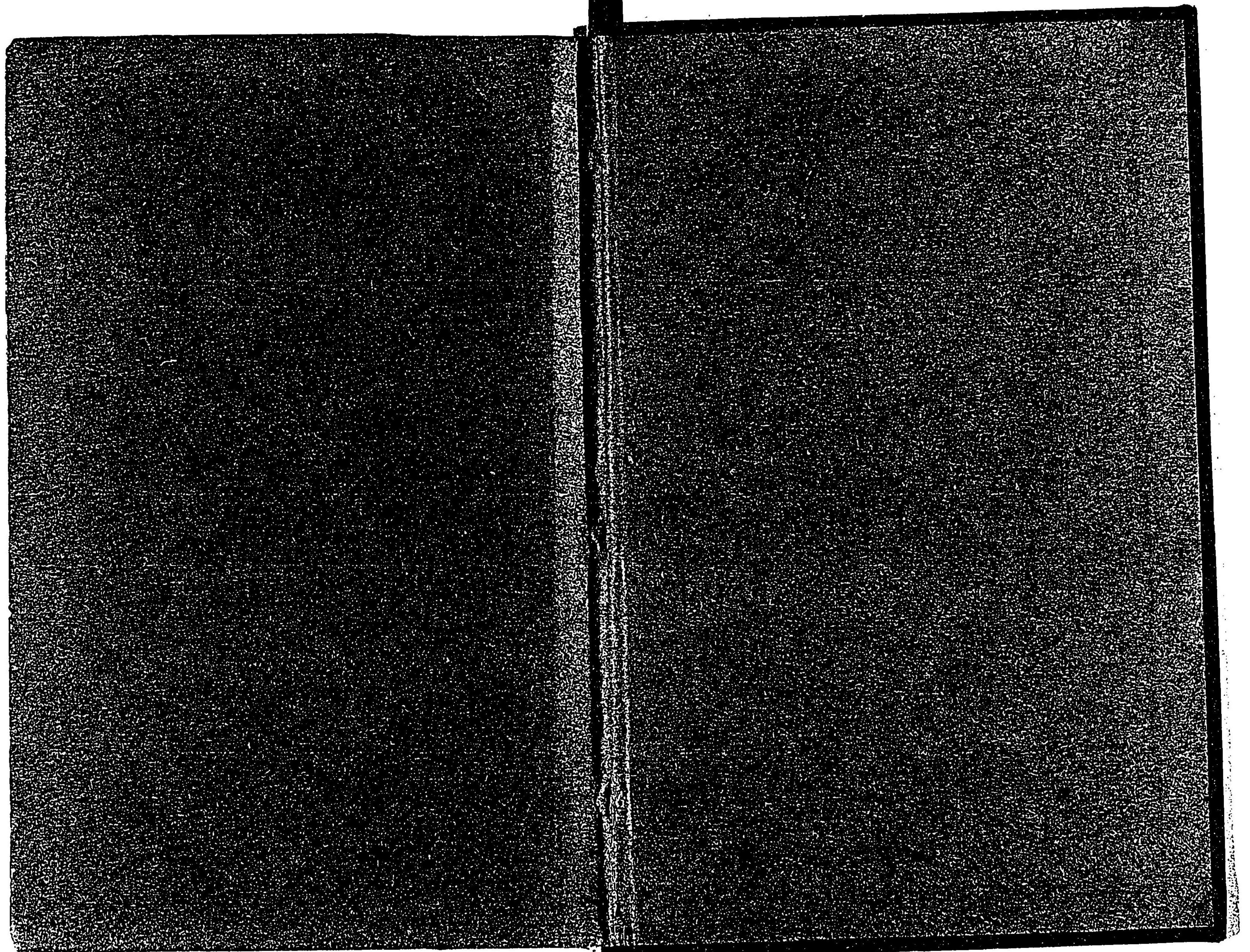
郵稅二冊まで金二錢
 正價一、二、三各七錢四、五、各九錢

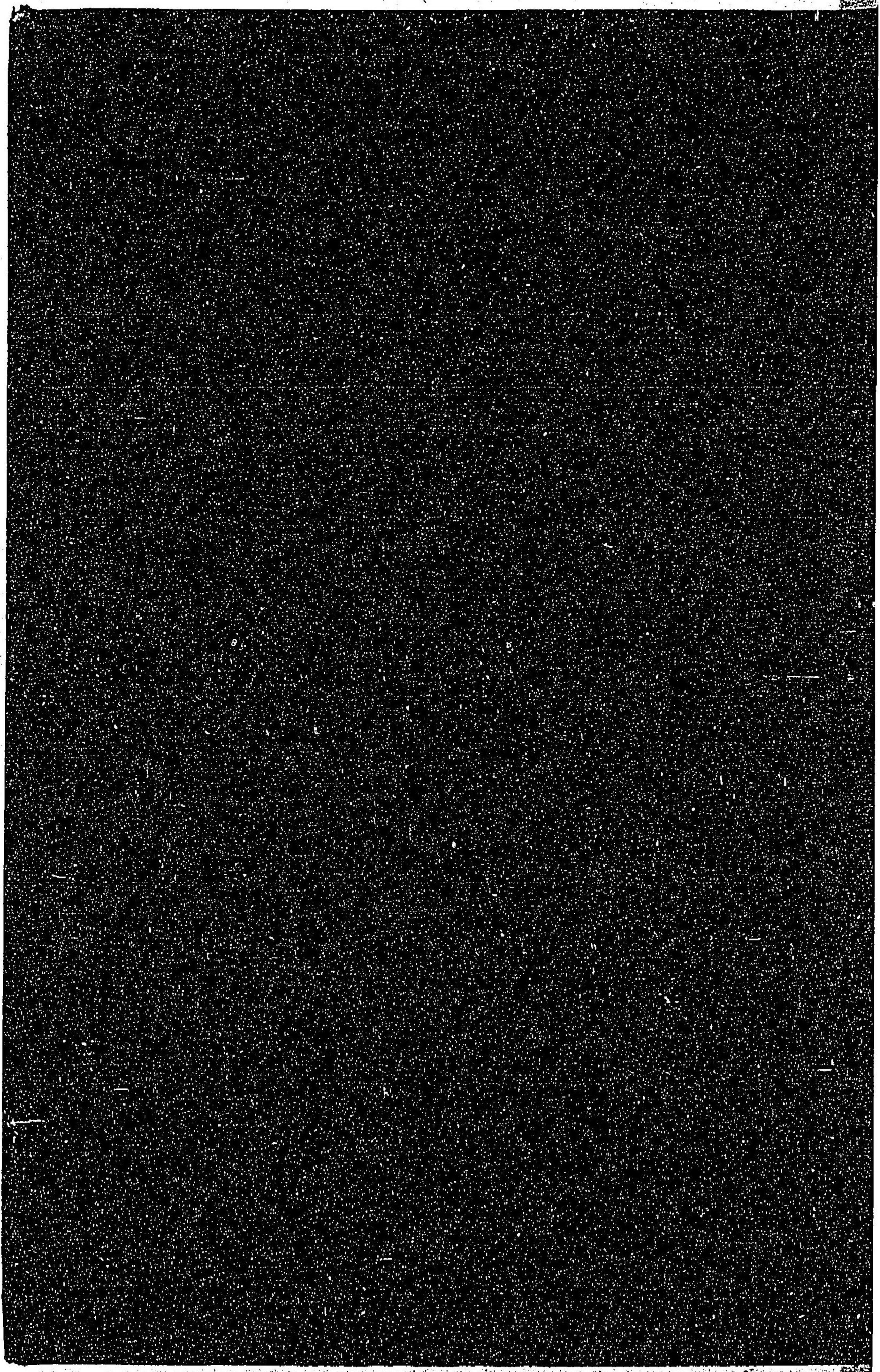
於て遺憾なけん
 說明せり庶幾くば英文法の蘊奥を煥發する
 暢なる日本文を以て丁寧親切に其使用法を
 難に屬する諸詞に就て箇々例を擧げ最も流
 して何れの日ぞ是を以て本書は英文法中至
 に縁て魚を索むると一般其目的を達する果
 すして漫りに英學を講ぜんとするに坐す木
 ふる能はず是他なし英文法の何たるを識ら
 せず故に一たび試問に遭へば忽ち究して答
 ぶ而して其意義に至ては漠然として毫も解
 近時英語を學ぶ者徒に高尚の書を讀むを喜

英文法詳解

郵稅各四錢
 正編九版 續編五版 正價各廿五錢

酒卷貞一郎 金子量太合著





083303-001-8

129-111(洋)

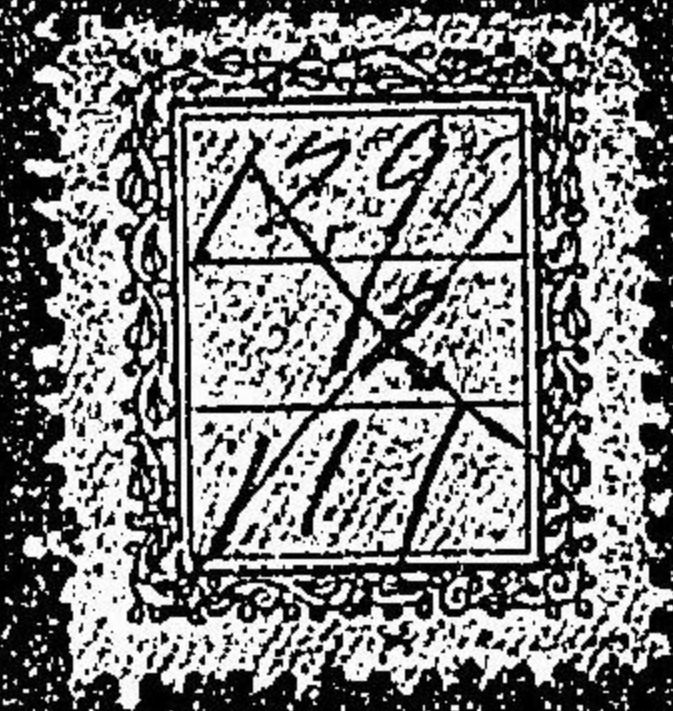
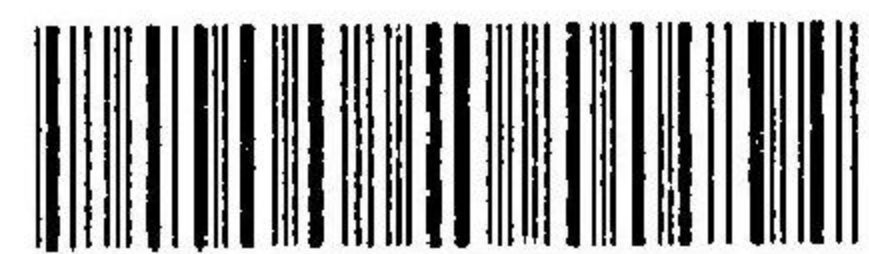
新編中等英文典

中原 貞七/訳

前編

M31

DAH-0801



129
2
111